

執筆者一覧（掲載順）

熊谷謙介	非文字資料研究センター研究員 神奈川大学外国語学部准教授
万建中	贛南师范大学“井冈学者”特聘教授；北京师范大学文学院教授， 博士生导师
黄清喜	贛南师范大学白鹭古村民俗学田野调查基地副主任、硕士研究生导师
武知正晃	台湾首府大学応用外語学系日語組助理教授
李百浩	東南大学建筑学院教授
松本康隆	南京工業大学建筑学院副教授
上水流久彦	県立広島大学地域連携センター准教授
蔡錦堂	台湾・国立台湾師範大学・台湾史研究所・教授
渡邊奈津子	非文字資料研究センター研究協力者
栗原純	非文字資料研究センター研究協力者 東京女子大学教授
大里浩秋	非文字資料研究センター客員研究員 神奈川大学名誉教授

■編集後記

今号から『年報非文字資料研究』は『非文字資料研究』として装いも新たにスタートしました。年一回から年二回発行へと拡大することで、優れた研究をいち早く発表する機会を提供できればと考えています。今回は移行期間ということもあり発行が遅くなってしまいましたが、これからは春と秋に出せるように努めていきたいと思っています。

今回も海外の寄稿者の論文をはじめ、さまざまな研究を紹介することができましたが、とりわけ海外神社班の公開研究会で発表された二つの分析と、それに対する二つの詳細なコメントを、研究ノートとして掲載しました。このシンポジウム「台湾でなぜ神社の復興見られるのか？ 中国・南京で社殿がなぜ壊されなかったのか？」は、すでにニューズレター36号で報告されていますが、発表の理路や細かな資料分析を見るためにも、論文として形になったことは有益であると思います。もちろん、公開研究会の発表を基にしたものとはいえ、査読を経て掲載に至っていることは言うまでもありません。また発表についてのコメントも、一つの論ともなる大変力の入ったものであり、今回研究ノートとしてまとめられたのは意義深いことでした。

研究の専門分化と脱領域化が同時に進む状況のなかで、研究をどのような形で広めていくかを模索するうえで、本紀要が今回のような試みに開かれた場でありたいと考えています（熊谷）。

■表紙説明

1937年12月に南京事件が起こった南京に、1943年10月に鎮座したのが南京神社である。その南京神社の拝殿は改変されてはいるものの、今もなお残っている。表紙の図面は、旧南京神社拝殿の現状立面図である。屋根葺材が瓦に変更され、棟の鬼板などがなくなっているが、破風板や懸魚・舟肘木の組物などは残っており神社拝殿の趣は今も感じることができる。

非文字資料研究 第13号

The Study of Nonwritten Cultural Materials No. 13

発行日	2016年9月30日
編集・発行	神奈川県立歴史博物館 非文字資料研究センター 〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1 http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/
印刷	株式会社 精興社
雑誌コード	ISSN 2432-5481